

事業報告

令和元年度 教育事業

ジャンプアップキャンプ

令和元年7月13日(土)～15日(月)
 【対象】小学校3・4年生
 【場所】国立信州高遠青少年自然の家

～趣旨～

自然の中でのグループ活動を通して仲間と主体的にかかわり、協調性・規範意識を育み自己肯定感を築く機会とする。またボランティアが事業の企画や運営方法について学び、ボランティアとしての資質・技能を高める。

～主催・後援団体～

主催：独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家
 後援：伊那市教育委員会

～活動日程～

	午前				午後				夜					
7/13 (土)	開会式 11:15～				開会式	屋食	活動準備	晴：自然の中で仲間と活動しよう 課題解決ハイキング 雨：室内活動	夕飯の集い	夕食	晴：キャンプファイヤー 雨：キャンドルファイヤー	就寝準備	就寝準備	消灯・就寝
7/14 (日)	起床・準備	朝の集い	朝食	秘密基地を作ろう	屋食	秘密基地を作ろう	仲間と協力して料理に挑戦 野外炊飯 (片付けまで)			就寝準備	就寝準備	消灯・就寝		
7/15 (月)	起床・準備	朝の集い	朝食	清掃・荷物整理	思い出を形にしよう クラフト活動 (基地解体含め)	屋食	振り返り	閉会式	閉会式14:00～					

～参加者～

小学3・4年生 計36名（長野県：33名、山梨県：2名、東京都：1名）

～活動トピックス～

活動Ⅰ 課題解決ハイキング「かくされし7色の宝石をさがせ」

グループで協力して課題をクリアし、7色の秘宝を見つけるチームビルディングのアクティビティーを行った。木に張ったロープを全員が手を離さずにくぐり抜けたり、リーダーの声の誘導で目を閉じたメンバーが目的地まで移動するゲームなどを行った。活動を通して互いの名前を覚え、話し合いをする中で相手の話を聞く雰囲気を作り、自分の気持ちを伝えられる関係性づくりを行った。



活動Ⅱ キャンドルファイヤー 「炎のうたげ」

キャンドルを囲んで、「ワムサム」「アブラハム」「じゃんけん列車」などの歌や踊りのレクリエーションを行い、参加者全員が一体感を持てる活動を行った。

最後はグループごとにキャンドルの灯を囲み、1日目の活動で感じたことを話し合い、振り返りを行った。「宝を見つけられて嬉しかった」「最初は不安だったけど名前を覚えられた」など安心して仲間と関わった様子が伺えた。



活動Ⅲ 秘密基地を作ろう「秘密基地大作戦」

屋外での活動を予定していたが荒天のため環境未来センターで班ごとに秘密基地づくりを作った。段ボールと麻紐を利用して、各グループどのような基地を作るか話し合い、役割分担をして作業に取り組み、活発に意見を交わし、活動が展開されていた。さらに他を見て「すごいね!」「こっちからも入れるよ」などの声があり、グループ以外の仲間との交流も深まった。



活動Ⅳ 野外炊飯「古の料理、『たまご島』を作り出せ」

班で一つの大きなオムライスを作る活動を行った。作業行程を班の全員が共有して、協力することができるよう、作業手順をホワイトボードで確認しながら調理を行った。

自分に何ができるか考え、主体的に行動する姿が多くみられた。



活動Ⅴ クラフト活動「完成せよ! 巨大宝箱」

全員で一つの作品を完成させ、作品が子どもたちのキャンプの思い出の作品になることねらいとして活動を行った。一人ひとりが、3日間の思い出を書いたフォーとフォトフレームを作り、それを大きな箱に並べることで一つの宝箱を完成させた。

写真の周りには、仲間やボランティアへの感謝や嬉しかったことが紙いっぱい書かれていた。

～参加者の声～

《参加児童》

- ・夕ごはんを作ろう、ひほうをみつけて友だちの名前をおぼえられて、思い出にのこった。
- ・みんなの名前をおぼえて、みんなをもりあげた。友達をつくったり、ひみつきちをつくった。みんなが好き。
- ・みんなでキャンドルファイヤーで踊ったりしたことが一番楽しかった。また来年もきたい。
- ・自分たちでアレンジして秘密基地ができて楽しかった。オムライスで小さい山をたくさん作って楽しかった。

～成果と課題～

- 2泊3日を共にすることで、子どもは仲間と助け合う機会が多く、絆が深まり、主体的に行動する姿が多くみられた。またボランティアにとっても子どもの変化を感じられて、学びの多い機会となった。
- 3日間の活動プログラムを企画運営する委員の準備にかかる負担が大きかった。小学校中学年の体力差は大きいいため後半で疲れから活動に集中できない子どももいた。ねらいを明確にした上で、さらに活動内容を精選しゆとりをもった計画が必要である。

